

地域美産研究会ニュース No.89

発行：平成 24 年（2012 年）9 月 3 日

第 89 回催事 地域美産研究会

『飯能の歴史と自然を歩く』

実施期日：平成 24 年 10 月 13 日（土）

県西部の飯能市。入間川(名栗川)が西から東へと流れます。
その飯能の約 3/4 をしめるのは森林。その森林から伐採された木材は江戸の西の川から運ばれたところから西川材と呼ばれ、入間川(名栗川)をくだり、大量に江戸へ運ばれました。
また幕末から評判の高かった武州の平絹、大島紬などの織物産業は戦前最盛期を迎え、飯能の隆盛を支えました。その様子をつたえる建物が市内にはあちこちに残っています。
こうした街並みを抜けて歩いていきますと、2011 年、水辺再生事業により整備された市民の憩いの場、飯能河原。美しい流れと背後にひろがる森は市民の生活に潤いを与え、訪れた人をホッとさせます。
さらにここは幕末の戊辰戦争のひとつ飯能戦争の地。彰義隊が立てこもった能仁寺があります。桃山時代の作庭ともつたえられる地泉回遊式の庭園は日本の名園 100 選にも数えられ、壮麗な伽藍とともに見所の一つです。
秋の日の一日、歴史と自然をゆっくりと味わいながら飯能市内を訪ねてみたいと思います。



店蔵絹甚



能仁寺境内

おもな探訪予定コース

銀座通り(馬車鉄道跡)周辺・絹織物組合・広小路・銀河堂・店蔵絹甚・畑屋・割烹料理屋街・
入間川(名栗川)・飯能市郷土館・能仁寺

企画・案内 伊豆井 秀一(いずい・ひでかず)

1949 年生まれ。埼玉県立博物館、埼玉県教育局生涯学習課、埼玉県立近代美術館主席学芸主幹を経、現在同館専門員兼学芸員。専門は日本近現代美術。著書に『小茂田青樹画集』(共著 日本経済新聞社)『昭和の美術 1, 2』(共著 毎日新聞社)など。現在「Smile 通信」(埼玉県住まいづくり協議会)で県内の文化の薫り高い住宅をシリーズで紹介中。明治美術学会、日本アートマネジメント学会会員。地域美産研究会世話人。

第89回催事『飯能の歴史と自然を歩く』

探訪会

日 時	平成24年10月13日(土) 13:00~16:30 頃迄(雨天決行)
集合時間・場所	12:45 西武池袋線飯能駅 改札出口 集合
探訪コース(予定)	13:00 銀座通り(馬車鉄道跡)周辺・絹織物組合 etc. 広小路・中清・旧小川医院 etc. 銀河堂・ 14:00 店蔵絹甚・ 畑屋・割烹料理屋街・ 15:00 飯能河原 飯能市郷土館(学芸員の説明) 15:45 能仁寺(厳守) ※16:00 までに入寺ということになっています。 (懇親会 四代目高島屋 飯能市仲町 26-16 042-974-5010 17:00 から 19:00)
案内と解説	伊豆井秀一
参加人数	20名(会員優先)(事前予約必要)
探訪会等の参加費	3ページ参照
個人費用負担	能仁寺入館料
遅刻等の連絡	080-1074-8607(伊豆井)

資料は当日配布します。

※なお、12:45 改札口集合ですが、B級グルメ<飯能すいとん>(第6回埼玉ご当地グルメ王大会3位)を食したい方のために下記に紹介いただいた駅周辺のお店を記載しておきます。

記

1. はんのうすいとん
 ¥700
 「そば處長寿庵」 042-972-3596
 飯能市仲町7-28
 (飯能北口5分)
2. すいとんセット
 ¥1000
 「そば処せいたろう」 042-974-3358
 飯能市八幡町13-19
 (飯能北口7分)
3. 飯能すいとん御膳
 ¥1050
 日本料理満寿家 042-972-2427
 飯能市東町34-5
 (飯能北口10分)

第 89 回催事 『飯能の歴史と自然を歩く』

(121013) 参加申込書

記入日：_____年 _____月 _____日

① 10月6日(土) 迄にこの申込書をメール、FAX (045-361-0461)、郵送で。

ふりがな		性別	男・女	年齢	才
氏 名		職業			
住 所	〒				
生年月日	大正/昭和 (西暦) 年 月 日				
会員資格	① 会員 ② 家族会員 ③ 法人会員 ④ 学生会員 ⑤ 一般(非会員) ⑥ 地元関係者				
Tel(自宅)		Fax			
Tel(携帯)		e-mail			
② 家族会員と③ 法人会員は、2名まで当該会員料金で参加可能。					
ふりがな		性別	男・女	年齢	才
氏 名		職業			
ふりがな		性別	男・女	年齢	才
氏 名		職業			

① 参加記入欄 (該当金額欄に○を付けて下さい) なお交歓会は自由参加です。

	1 探訪会	2 交歓会	3. 合計
会員	1,000	5000	6,000
会員 (1名分)	1,000	5000	6,000
法人会員 (1名分)	1,000	5000	6,000
家族/法人会員の+1名	1,000	5000	6,000
*学生と地元関係者	1,500	5000	6500
一般 (非会員)	2,000	5000	7,000

参加申込と受付 会員優先で申込先着順となります。以下の申込手続きに従ってお申し込みください。

1. 参加申込欄の記入事項欄に必要事項を記入し、メールかファックス又は郵送で事務局へ。
2. 事務局から参加枠確保の連絡を受けて、指定振込口座
(みずほ銀行 虎ノ門支店 店番号046 普通口座 口座番号 4053204 地域美産研究会 会計 渡辺久剛) に貴方の参加料金を振込料自己負担で振り込み願います。
3. 振込みが無い場合は貴方の参加枠を喪失しますので予めご注意ください。
4. 振込み済み料金払戻し；主催者側瑕疵の場合を除き払戻は不可です。
5. 申込締切日：10月6日(土)
6. 探訪会の傷害事故補償：美産会が費用負担する「損保ジャパン「レクリエーション保険」で補償。
7. 郵便宛先：241-0836 横浜市旭区万騎が原 71 藤嶋俊會 電話：090-7827-8228
8. メールアドレス：hidekazu.izui0609@kind.ocn.ne.jp

② 貴方の振込金額 (上欄○印金額の合計を記入)： ¥ _____

Public Art Forum 地域美産研究会とは

日頃人々が生活する場に創り遺された地域の社会美産*たちを、専門家と一緒に現地に訪ね、歴史と文化、地域性や国際性、美や技、景色などの視点から眺めて味わい、地域の魅力を再発見・再評価する。

(※社会美産と地域美産：パブリックアートの視点を広げる為の新造語)

地域の魅力再発見・再評価を通して、改めてその土地ならではの歴史や暮らしに愛情・尊敬・誇りを感じ、心の充実安心を得て、自分づくり、家族との絆づくり、仕事づくり、会社づくり、街づくり、国づくりに役立つ何かを見付けながら、仲間達との交歓を楽しむ会員制非営利任意団体です。

会員入会者・催事参加者は、学生・社会人・各分野の専門家など時には外国人を含む幅広い人々が分け隔てなく参加して、各人ならではの参加意図に適った充足感を味わっています。

地域美産研究会は、街づくり景観づくりに関係する地方自治体や都市デザイン・アート分野の人々が集い活動した「パブリックアート・フォーラム」(平成6年～13年、代表幹事 田村 明)を継承した会で、非会員の方々も活動に参加できます。



Public Art Forum 地域美産研究会 設立のきっかけ

パブリックアート・フォーラムは、平成14年(2002)12月迄の過去10年間、美術館から街中に出て、各地の街角や広場に設置された彫刻に代表されるパブリックアートたちに焦点を合わせて、もっぱら欧米におけるそれらの役割・効果を調べて、普及・研究活動を行ってきました。

その後、米国のパブリックアート著名作家 マヤ・リンが、伊勢神宮を日本の優れたパブリックアートとして挙げたこと、環境美学研究家バーバラ・サンドリッセがその著述「パブリックアートとしての鳥居、その不思議な魅力(2000年刊)」で、日本の鳥居をパブリックアートとして大変高く評価したこと、平成13(2001)年、女史の来日を記念して開催した特別フォーラム「バーバラ・サンドリッセと都心の鳥居を探訪し、女史の話を聞く会」での体験が、パブリックアートに対する私達の視点を大きく広げて、新しい活動を促しました。

私たちがごく身近に古くから在って、地域の生活と密接に係わりながらその地の生活文化を創り育て、人々の心の拠り所になってきた、その地ならではの美しき良きモノたちを、従来型のパブリックアートを含めて現地に訪ね、肌で味わい評価する。

それらの再発見・再評価を通じて、地域の暮らしと歴史に愛情・尊敬・誇りを感じ、心の充実・安寧を得ながら次代を生き抜く力とする。「Public Art Forum 地域美産研究会」(昨年度迄は「地域美産研究・探訪会」)は、このような主旨から平成14年12月1日に設立された活動団体です。



運営： アドバイザー・会員等の意見・提言を受けて「世話人会」が運営を担う。

(1) 世話人会

創業者／相談役	杉村 荘吉	(パブリックアート研究所代表)
代 表	藤嶋 俊會	(美術評論家)
副 代 表	伊豆 井秀一	(埼玉県立近代美術館専門員兼学芸員)
世 話 人	石村 誠人	(駅・街デザインとパブリックアート研究家)
	渡辺 久剛	(会計：三井不動産ビルマネジメント(株))
	橋本 完	(アート・インキュベータ：アトリエまほろ主宰)
	渡部 伍郎	

(2) アドバイザー	宝利 修	(ITアドバイザー：ぶんか合同会社プランナー)
	加藤 源	(都市計画設計家、日本都市総合研究所代表)
	後藤 元一	(環境設計家、元札幌市立高専教授)
	建畠 哲	(美術評論家、埼玉県立近代美術館館長)
	山岡 義典	(市民社会創造ファンド 運営委員長)